

# 肝臓切除術を受けられる(2)

様へ

説明医師

説明看護師(外来)

看護師(病棟)

月日	月 日	月 日	月 日
経過	入院日	手術前日	当日術前
目標	○心身ともに安定した状態で手術を受けられる ○治療に対する不安を表出できる		○術後合併症を起こさない (出血、深部静脈血栓症、肺炎、縫合不全、感染、腸閉塞)
検査	身長、体重測定	採血 体重測定	
食事	朝より流動食 夕食後絶食、21 時以後絶飲食 経口補水液は、麻酔科の指示で服用		絶飲食
処察	朝食は自宅 		
処察	リストバンドを装着します(退院日まで) 必要時、糖尿病・内分泌科の診察があります	弾性ストッキングのサイズを測定しお渡しします	手術後以下の挿入物、装着物があります ・酸素マスク ・心電図モニター ・点滴の管 ・背中のチューブ(鎮痛剤) ・創部のチューブ(鎮痛剤) ・創部の管(ドレーン) ・尿道カテーテル ・フットポンプ(血栓予防)
	毎日血糖測定します		
状況に合わせて、体温・脈拍・血圧・酸素飽和度を測ります			
点滴・内服	持参薬、お薬手帳を看護師にお渡しください 以下の点滴を行います 昼 肝不全用アミノ酸製剤 利尿剤	以下を服用します ・昼 500ml の下剤 ・眠前 下剤 以下の点滴を行います 朝 肝不全用アミノ酸製剤 利尿剤	以下の点滴を行います ・持続点滴 ・抗菌薬 ・鎮痛剤 ・胃薬 ・肝庇護剤
行動・リハビリ	シャワー浴できます(週3回、病棟毎日が異なります) 制限はありません リハビリ科の診察があります	シャワー浴、洗髪をします	以下の手術準備をします ・手術着に着替え ・弾性ストッキング装着 ・入れ歯、アクセサリ、時計等の取り外し 術後、集中治療室にベッドで入室します 翌朝までベッド安静です
説明・指導	医師・麻酔科医より(外来又は入院時) ・治療計画について ・手術について ・麻酔について 病棟・手術室・集中治療室看護師より ・入院生活について(パスシートを使用) ・手術について ・集中治療室について 薬剤師より ・持参薬確認 ・使用薬剤について		医師より ・手術結果について 看護師より ・術後の注意点について ・安静について ・下肢運動について ・痛み止めの使用方法について

**\* 入院に際して、この用紙を必ずお持ちください**

\* 入院時に栄養状態を評価して栄養管理計画を立てます。定期的に栄養状態の再評価を行い計画を見直します。

\* この表はおよその経過をお知らせしたものです。種々の都合により、予定通りではないこともあります。

月日	月 日	月 日	月 日～ 月 日	月 日～ 月 日
経過	術後 1 日目		術後 2 日目	
経過			術後 3～4 日目	
経過			術後 5～11 日目 (退院日)	
目標	○術後合併症を起こさない（出血、深部静脈血栓症、肺炎、縫合不全、感染、腸閉塞） ○合併症予防のためリハビリ（歩行訓練、呼吸訓練）がおこなえる			
検査	採血 レントゲン撮影 体重測定		3 日目・5 日目・7 日目 採血 レントゲン撮影	
食事	絶食 (水分は医師指示で)		3 日目 朝より 五分粥食開始 4 日目 朝より全粥食	
処置・観察	以下の挿入物、装着物があります ・酸素マスク → 取り外します ・心電図モニター → 取り外します ・点滴の管 → 点滴が不要となれば抜去します ・背中のチューブ（鎮痛剤） → 術後 2～3 日で抜去します ・創部の管（ドレイン） → 術後 4 日程度で抜去します ・尿道カテーテル → 術後 2～3 日で抜去します 毎日血糖測定します 創部を観察、処置を行います 状況に合わせて、体温・脈拍・血圧・酸素飽和度を測ります		退院時にリストバンドを外します	
点滴・内服	以下の点滴を行います ・持続点滴 ・鎮痛剤 ・胃薬			
行動・リハビリ	午前中 全身清拭し、手術着からパジャマに着替えます		状況に合わせて、全身清拭、洗髪、足浴を行います 尿道カテーテル抜去後はトイレで排尿できます	
説明	付き添いのもと、リハビリを開始します		リハビリを継続します (安静度やリハビリの進行には個人差があります)	
説明			医師より ・退院後の治療計画、療養上の留意点について 看護師より ・退院後の療養生活について (退院療養計画書をお渡しします) 療法士より ・退院に向けて	

